

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：民生費 項：社会福祉費 目：障害者福祉費

事業名 **新**手話通訳士養成事業（国補）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

健康福祉部 障害福祉課 社会参加推進係 電話番号：058-272-1111（内2608）

E-mail：c11226@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,000 千円（前年度予算額： 0 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	1,000	500	0	0	0	0	0	0	500
決定額									

2 要求内容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

手話通訳士は、大学等の高等教育やテレビ、政見放送、司法場面等高度な手話通訳知識や技術を求められる領域で手話通訳を行っている。

県の手話通訳者派遣制度では、映像配信等高い技術が求められる手話通訳の場合、手話通訳士を派遣しており、近年派遣件数が伸びている。

一方で、県内の手話通訳士（派遣登録のある者）は20名と少なく、また高齢化が進んでおり、手話通訳士の養成が必要となっている。

（2）事業内容

県内の手話通訳者を対象に、手話通訳技能認定試験（手話通訳士試験）に向けた手話通訳士養成研修を実施する。

- ・ 対 象 20名（手話通訳者）
- ・ 実施回数 15回

（3）県負担・補助率の考え方

国 1/2、県 1/2 国庫補助 [地域生活支援事業]

- (4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	1,000	
合計	1,000	

決定額の考え方

4 参考事項

- (1) 各種計画での位置づけ

岐阜県障がい者総合支援プラン

- (2) 国・他県の状況

手話通訳士数：愛知県 126名、三重県 52名 (R3年8月31日時点)

- (3) 後年度の財政負担

手話通訳士の確保は継続して実施する必要がある。

- (4) 事業主体及びその妥当性

手話通訳者養成事業や手話通訳者スキルアップ事業を県が事業主体で実施しており、手話通訳士養成事業も県が事業主体となるのは妥当。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
岐阜県内の手話通訳士を増やし、聴覚障がい者の情報保障を支援する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R2 年度 実績	R3 年度 目標	R4 年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
						%
① 手話通訳士数 (県登録者)	20		25	30	35	%
②						%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	・取組内容と成果を記載してください。
令和 3 年度	令和5年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和 4 年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</p>	
(評価)	
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価)	
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</p>	
(評価)	

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	<p>【○○課】</p>
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	